

# 成田山の坊入り

(精進料理)

成田山の坊入り（精進料理）を受けるには？

1. 三万円以上の大護摩を受けると3人迄坊入りを受ける事が出来ます。
2. 三万円以下のお護摩でも、千円/一人で受けることが出来ます。  
御護摩申し込み時に同時に申し込むこと。
3. 日帰りのバスツアーに申し込む方法もあります。
4. 数十名の団体で申し込む方法もあります。



成田山の坊入り膳



左上は御神酒

特に有名なのは甘がらく煮付けた大浦ゴボウで、大変大きなゴボウです。  
千葉県匝瑳市八日市場の大浦地区の十軒程の農家で栽培しています。同市指定天然記念物です。

平安時代中期の武将藤原秀郷が、御本尊不動明王へ貴重な大浦ゴボウをお供えして戦勝を祈願したところ、願いが叶って平将門の乱は鎮まり、祝宴を開き、大浦ゴボウが振舞われました。このことから「勝ちゴボウ」とも呼ばれているようです。  
朝廷軍が到着する前に平将門は地元の武士、藤原秀郷(ふじわらのひでさと)、平貞盛により打たれる。

成田山の坊入り膳にはお神酒は付くが、ご飯はありません。(明治時代から)  
ご飯を付けないのは、お食事は参道のお店でお召し上がり下さいとのことです。  
また成田山には宿坊ありません。これは参道のお店やホテル旅館への配慮です。

お寺の建物を「坊」と呼びます。「坊」の「主(ぬし)」ということで「坊主(ぼうず)」となったわけですが、その特別な「坊」に入ることを「坊入り(ぼういり)」と言います。  
坊=寺の意味で使われるようになると、いつも住んでいる寺を**自坊**、大寺院の寺務を取り仕切る所を**本坊**、参詣者の宿泊用を**宿坊**、などと呼ぶようになります。真宗では別院を**御坊**(ごぼう)住職の妻を**坊守**(ぼうもり)と呼ぶことがあります。  
坊は長屋形式で、数人が共同生活をしていました。坊の責任者=あるじが坊主です。